【様式C　別添】

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業
（④困難を抱える親子を対象とした自然体験活動推進事業）

児童養護施設等を対象とした自然体験活動推進事業

～あきたチャレンジキャンプ～

【事業のポイント】

○地域の教育力を活用した持続可能な運営を図るために、地域住民が参画する少年自然の家協働会議の設置
○少年自然の家協働会議によるプログラムの企画・立案
○児童養護施設等の子供たちの「生きる力」を育むための効果的なプログラムの企画・立案
○「生きる力測定ツール」による子供たちの変容とキャンプ実施による教育効果の確認

【上級生が下級生の面倒をみて友情の火を灯しました】

1. 企画

（1）事業実施の背景

地域や家庭の環境が著しく変化し続ける現在において、地域ぐるみで子供を育てるという社会的養護の考え方から、児童養護施設等は、地域と連携しながら子育てを担う施設の一つとして重要な役割をもつ。

現在、秋田県内には複数の児童養護施設等があるが、子供たちの入所経緯は様々であるものの、家庭環境や地域との関わり等に恵まれなかったことなどから、自尊感情の低さ、社会性やコミュニケーション能力の乏しさが指摘されており、体験活動を通して「生きる力」を育むことは重要である。県立の３少年自然の家では、これまでそれぞれに近隣の児童養護施設等の利用実績をもつが、児童養護施設等の子供たちにより効果的なプログラムを普及させる上では、子供たちの実態や施設側のニーズを十分に考慮したプログラムの企画・立案が課題と言える。

（2）ねらい

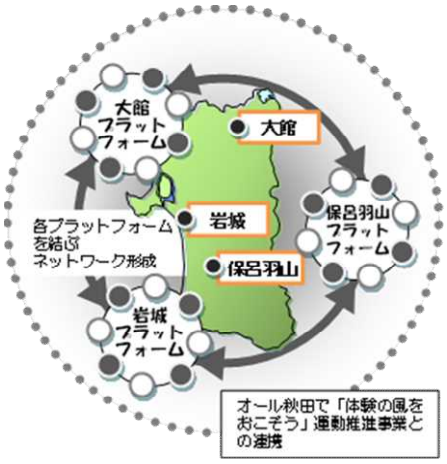
県立３少年自然の家を拠点とした地域プラットフォームを置き、関係機関・団体等が情報共有を図りながら、それぞれの自然の家がもつ特色ある自然環境や活動メニュー等を生かしたプログラムの試行・検証を行い、秋田県内の対象団体への普及に努める。また、少年自然の家と地域がパートナーとして連携・協働する体制を整え、ネットワークを全県域に拡充しながら、秋田県「体験の風をおこそう」運動推進委員会（国立青少年教育振興機構委託）とも、この課題を共有し、事業連携を図っていく。

2. 実施概要

（1）地域プラットフォームの構成

①３少年自然の家を拠点に地域プラットフォーム置く
次の構成メンバーによる委員会を組織する
・少年自然の家 代表(大館・岩城・保呂羽山)
・市教委 関係者（大館市・由利本荘市・横手市）
・ＰＴＡ連合会 代表（大館・由利本荘・横手）
・校長会 代表（大館・由利本荘・横手）
・民間団体 代表
・各教育事務所長（北、中央、南）
・自然の家利用者 代表
・各児童養護施設　施設長
（白百合ホーム、感恩講児童保育院、県南児童愛児園）

②各少年自然の家協働会議をむすぶネットワーク形成
・各プラットフォームが相互に情報交流・意見交換を行う
・オール秋田で「体験の風をおこそう」運動推進事業とも連携し、より一体的に体験活動を推進する機運の醸成を図る



(2)具体的な取組の概要

1　事 業 名

児童養護施設等を対象とした自然体験活動推進事業　～あきたチャレンジキャンプ～

2　事業趣旨

少年自然の家において、地域の教育力を活用した持続可能な運営を図るために、地域住民等が参画する少年自然の家協働会議を置き、所の運営への支援をする。また、青少年を取り巻く現代的課題や様々なニーズについて協議し、その結果を積極的に反映した自然体験プログラムの企画・立案により、児童養護施設等で生活する子どもたちを対象にキャンプを実施し、心身ともに成長するきっかけとするとともに、少年自然の家と地域がパートナーとして連携・協働する体制を整える。

3　実施内容と実施日

① ワークショップとあきたチャレンジキャンプの企画・立案

［目　　的］

・児童養護施設等の実情や、そこで生活する子供たちの状況等を理解する機会とする

・あきたチャレンジキャンプにおける体験活動プログラムを企画・立案する機会とする

［実施場所・実施日・参加人数］

・大館少年自然の家　　平成２９年　７月２９日（土）委員５名

・保呂羽山少年自然の家　平成２９年　９月１４日（木）委員５名

・岩城少年自然の家　　平成２９年１０月　１日（日）委員５名

②児童養護施設等への情報提供

［目　　的］

・各少年自然の家が主催する事業の周知

・児童養護施設等のニーズに対応した自然体験活動プログラムに関する情報の提供

［配付先・配付回数］

・大館少年自然の家　白百合ホーム　所報「わんパーク大館」７回（4月～10月号）

・保呂羽山少年自然の家　県南愛児園　所報「ほろわんぱーく通信」８回（4月～11月号）

・岩城少年自然の家　感恩講児童保育院　所報「岩城少年自然の家だより」11回（4月～2月号）

② 児童養護施設等の子供たちを対象に各プラットフォームで企画したキャンプの実施

［目　　的］

・児童養護施設等で生活する子どもたちを対象にキャンプを実施し、仲間とともにプロジェクトアドベンチャーや野外炊飯、テント泊等の体験活動を通して、自然の豊かさや魅力、仲間の大切さなどにふれながら、心身ともに成長するきっかけとする。

［実施場所・実施日・参加施設・人数］

・大館少年自然の家　平成２９年８月４日（金）～５日（土）
白百合ホーム２０名（小学生13名、中学生3名、職員4名）

・岩城少年自然の家　平成２９年９月３０日（土）～１０月１日（日）
感恩講児童保育院37名
（幼児3名、小学生11名、中学生11名、高校生7名、職員5名）

・保呂羽山少年自然の家　平成２９年１０月１４日（土）～１５日（日）
県南愛児園17名（幼児2名、小学生12名、職員3名）

(3)実績スケジュール

月　　日	内　　容
7月18日（火）	○第1回秋田県「体験の風をおこそう」運動推進委員会 「あきたチャレンジキャンプ」について説明 各少年自然の家所長より、事業予定を紹介し、各団体との連携を確認
7月29日（土）	○大館少年自然の家プラットフォーム　プログラム企画委員会 【ワークショップ】 ・講　話「母子生活支援施設白百合ホーム園生の現状について」 講　師　成田　暢子　氏（母子生活支援施設白百合ホーム） 【プログラム企画委員会】 ・自己有用感の醸成するためのプログラムについて
8月4日（金） ～5日（土）	○あきたチャレンジキャンプ（大館少年自然の家） 白百合ホーム関係者　20名、委員5名　参加 ・1日目　テント設営、ＰＡ、フィールドワーク、野外炊飯（夕食）、肝試し ・2日目　野外炊飯（朝・昼）川遊び（カジカ突き、カヌーなど）
9月14日（木）	○岩城少年自然の家プラットフォーム　プログラム企画委員会 【ワークショップ】 ・講　話「感恩講児童保育院の現状について」 講　師　小野寺　恵子　氏（感恩講児童保育院　院長） 【プログラム企画委員会】 ・幼児から高校生に対応する自然体験プログラムについて
9月30日（土） ～10月1日（日）	○岩城少年自然の家あきたチャレンジキャンプ 感恩講児童保育院関係者　37名、委員5名　参加 ・1日目　ＰＡ、テント設営野外炊飯（カレー作り）、キャンプファイヤー ・2日目　カートンドッグ作り、鳥海山自然観察
10月1日（日）	○保呂羽山少年自然の家プラットフォーム　プログラム企画委員会 【ワークショップ】 ・講　話「県南里親会と子どもたちの現状について」 講　師　伊藤　暉悦　氏（県南里親会会長） 【プログラム企画委員会】 ・子どもたちが達成感を味わうことができるプログラムについて
10月14日（土） ～15日（日）	○保呂羽山少年自然の家あきたチャレンジキャンプ 横手市立県南愛児園関係者17名、県南里親会10名、委員4名　参加 ・1日目　ＰＡ、ハイキング、陶芸、バーベキュー、キャンプファイヤー、 夜の森探検 ・2日目　ネイチャーゲーム、野外炊飯（山菜といものこ汁作り）
2月8日（木）	○第2回秋田県「体験の風をおこそう」運動推進委員会 各自然の家所長よりキャンプの事例発表 今年度の成果と課題、来年度の展望について情報交換
2月22日（木）	○第２回岩城少年自然の家プラットフォーム　プログラム検討委員会 ・事業報告 ・協議　　今年度の成果と課題 次年度の方向性

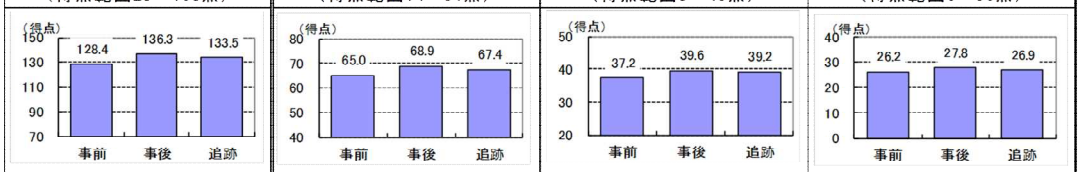
３. 成果と課題

（1）成果

●アンケート調査による「あきたチャレンジキャンプ」効果の検証

キャンプ参加者４７名を対象に、国立青少年教育振興機構「生きる力の測定・分析ツール」を活用し、キャンプの事前、事後、１か月後にアンケート調査を実施し、「生きる力」の変容を検証した。

生きる力の変容		社会的心理的能力の変容		徳育的能力の変容		身体的能力の変容	
28問 （得点範囲28～168点）		14問 （得点範囲14～84点）		8問 （得点範囲8～48点）		6問 （得点範囲6～36点）	
事前→事後	事前→追跡	事前→事後	事前→追跡	事前→事後	事前→追跡	事前→事後	事前→追跡
7.9P	5.1P	3.9P	2.4P	2.4P	2.0P	1.6P	0.7P



【アンケート結果の分析】

・事前から追跡にかけて5.1Pポイント向上しており、「生きる力」の3つの要素（心理的社会的能力、徳育的能力、身体的能力）全てにおいて向上が見られ、参加者の実態に即した体験活動プログラムは「生きる力」を育む上で有効であったと言える。

・特に「自分のことが大好きである」「自分に割りあてられた仕事は、しっかりとやる」「早寝早起きである」の項目アップは自己肯定感の向上、「自分かってなわがままをいわない」「だれとでも仲よくできる」は、社会性やコミュニケーション能力の向上に効果が見られたと言える。また、キャンプの効果が持続していることからもプログラムの効果がうかがえる。

【成　果】

〇アンケート結果のとおり「生きる力」の変容に明らかな効果が見られ、子どもたちにとっても主催者にとっても有用性を感じることができた。

〇子どもたちの変容を数値化することにより、キャンプの成果を定量的に図ることができたとともに課題を次年度の取組に生かすことができた。

〇ワークショップで子どもたちの実態を理解し、子どもたちにより効果的なプログラムを関係者の意見を取り入れたプログラムを企画し実施したこと、企画だけでなく委員がキャンプへの協力をして、多くの大人が関わったことが、より効果的な子どもたちの「生きる力」を育む力となったと言える。

（2）課題

△児童養護施設等の子どもたちにとって、その複雑な生活環境から自然体験活動の回数を増やすことは難しい。１回の自然体験の効果は、時間の経過とともに効果が急速に薄れる傾向があるため、継続して体験活動の機会を設ける仕組みや方策を考える必要がある。

△今年度の反省をもとに、さらに深く子どもたちの実態を理解し、それぞれの施設の持つ特色ある自然環境や活動メニューを生かしたプログラムを試行・検証し、パートナーとして連携・協働できる団体とネットワークを形成していかなければならない。

４. 地域プラットフォームの展望（今後の方向性・取組等）

・今回は児童養護施設に入所する親子等を対象にしたキャンプであったが、今後は不登校児童・生徒や問題行動を繰り返す児童生徒、インターネットやゲーム依存などの現代的な課題や困難な問題を抱える親子に拡大して実施することも考えていく必要がある。
・地域プラットフォームを構成する団体や協力者のネットワークを地域ごとに拡大し、自然体験プログラムの企画・立案のみならず、少年自然の家と地域がパートナーとして連携・協働できる持続可能な体制を整える。
・各少年自然の家を拠点としたそれぞれの地域プラットフォームを結ぶネットワークを形成し、「子どもゆめ基金」等の助成を活用した体験活動の実施や、オール秋田で「体験の風をおこそう」運動推進事業とも連動した取組へと発展させる。

５. 団体プロフィール

・大館少年自然の家プラットフォーム　TEL 0186-43-3174
・保呂羽山少年自然の家プラットフォーム　TEL 0182-26-6011
・岩城少年自然の家プラットフォーム　TEL 0184-74-2011

【委員の方々も協力して火をおこします】